

地域の未来を担う高校生との協働に取り組む現場を訪ねて～西部くるまぎ会～

交通基盤部 建設支援局技術管理課

平成29年12月18日(月)に「西部くるまぎ会」を開催しました。建設技術監理センターは、建設行政に関連して地域の課題に積極的な取組を行っている協働の現場を訪問し、現場見学と意見交換(くるまぎ会)を行っています。

今回の訪問先である静岡県立浜松南高等学校は、「地域の未来を担う人材の育成及び地域の貴重な自然環境を後世に残す」ことを目的に県と覚書を締結し、現在県が整備を進めている浜松沿岸地域防潮堤の周辺に生息する希少生物「カワラハンミョウ」や地域固有の在来植物の保護など、地域の自然環境対策に積極的に関わっています。

当日は、行政機関やNPO等からの参加者(計14名)が、カワラハンミョウの生息地の見学後、浜松南高校生物部室を訪問し、生物部の取組に関する説明を頂きました。生物部員の生徒からは、在来植物の保護、希少生物の保護に関する取組を通じて、環境問題への関心が高まったとの説明がありました。

また、顧問の先生からは、行政との協働により、「部活動の目的の明確化」、「活動の有用感」、「活動のレベルアップ」に繋がっているとの説明がありました。

その後、「浜松南高生物部との協働でもっと魅力ある防潮堤にしよう」をテーマに、参加者と生物部員が3グループに分かれて、意見交換を行いました。

参加者からは、「活動資金の確保に向けた仕組みづくり」、「より良い活動にしていくための交流の場づくり」、「動画配信やSNS等を活用した情報発信・共有」等の意見が出ました。



生物部員による取組説明



意見交換会